

# 平成29年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)報告

平成29年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)が10月7日(土)～9日(祝月)の日程で、山口県山口市の県の研修施設「山口県セミナーパーク」大研修室をベースとし、8日の実技講習はセミナーパークに隣接する「陶ヶ岳連山」にて開催された。

受講者は、奈良1、兵庫1、鳥取2、島根3、岡山1、広島4、山口10、徳島4、香川5、福岡2、佐賀2、長崎3、熊本1、大分3、宮崎1、鹿児島1、沖縄2の17県から46名(男33名、女13名)が参加し、主催者、講師、スタッフを合わせると総勢76名となった。

1日目は、受付、開講式のあと、国立登山研修所講師で日本登山医学会の水腰英四朗医師により、講義1「ファーストエイド～初期対応と緊急性の見極め」をテーマに講義をいただいた。内容は山岳遭難者が年々増加しているが、この中にはファーストエイドが適切であったら、助かった命があったかも知れない。事故が発生したときに仲間を助けられるのは登山者自身です。

ファーストエイドは大まかに予防→救急措置→救助要請の3ステップに大別され、特に救急の観点から患者の状態を悪化させないためには、できるだけ早く(目標2分以内)確実に「初期評価・蘇生・ゴール設定」までを行えることが必要で、救急手順をキーワード化し覚えやすい言葉で纏めたのが3S ABCDEで、この手順について分かりやすく説明をいただいた。

また、緊急性が高いと判断した場合は迷わず救助要請を行い、通報要領は「山岳遭難です」と明確に伝えることが重要と説明された。

次は2日目の技術講習のために「単位技術」として実習を行った。内容は、傷病者対応の3S ABCDE・低体温症患者への加温方法・傷の手当・ツェルト設営・ロープワーク・搬送方法等について、「パワーポイント」で説明しながら指導員や経験のある参加者間で教え合いな



閉講式

がら全員が習得できるようにした。

2日目の実技場所は裏山の陶ヶ岳連山。施設からそのまま歩いて登られるので移動時間ロスが少なく研修や討議に充てる時間を多く確保できた。また、研修効率を上げるため受講者を2隊に分け、更に隊を2班に分けて交差縦走を行った。

縦走路途中に課題設定ポイントを4ヶ所設置し、P1とP4では傷病演技者と装備をもって、班単位で内容を検討しながら課題の救助対応を勉強して頂いた。

また、各ポイントでは終了後、受講者間で反省と評価を行い指導員及び講師からアドバイスをいただいた。

P1ポイントでは「軽度の低体温症」と「中度の低体温症」の患者救助の課題を、初日の「単位技術」講習を思い出しながら班ごと交互に「低体温症演技患者」に対し、3S ABCDEから入る救助対応を求め、中程度で体温が下がっている患者に対しては、患者を移動することや、体皮膚面の冷えた血流でアフタードロップを起こさないことに注意し、体の体幹部に対しては加温の必要性、ヘリ救助まで傷病人の対処方法等を体験した。

P2ポイントにおいては、約600m離れた場所で主催者が用意した器具(ホイッスル・ヘッドランプ・蛍光シート)にて緊急信号を発信し、山頂側で受講者に見える程度、聞こえる程度を評価してもらい表に纏めた。



ツェルトでの搬出講習



研究協議